

ビブリオバトル in 鳥取実施報告

高 井 亨

1. はじめに

学生と地域、とりわけ中心市街地とをつなぐ試みとして、平成 25 年度、筆者は「ビブリオバトル（書評合戦）」を鳥取市中心市街地で 2 回実施した。この取り組みを「ビブリオバトル in 鳥取」と名付けて行った。筆者がこのような取り組みを中心市街地で実施した背景には、鳥取市中心市街地における大学生の「少なさ」を感じたことが一つの要因である。鳥取市内には 2 校の大学（鳥取大学、鳥取環境大学）が存在し、両学を合わせると 6000 人近い学生が市内で生活している。しかし、どちらも中心市街地からは 5km ほど離れた場所に位置し、学生は各大学の周辺に居住することが多く、日常生活は大学周辺で事足りるようになっている。そのため、学生が中心市街地（以下「街中」）を訪れることは少ないように思われる。

このような状況の中で、街中に大学生を呼び込むための試みはいくつかなされている。また実際に街中を文化活動等で活性化しようと活動している学生もいる。ただし、そういった学生は街づくりに関心が高く、また何らかの表現手段をすでに有している場合が多い。しかし、すべての学生がそういった関心を持っているわけではないとすれば、学生が街中とかかわりをもつための手段は、買い物もしくはアルバイトなど極めて限定的であろう。

そこで導入したのが街中でのビブリオバトルである。後述する通り、ビブリオバトルは特別なスキルを持たずとも、誰もがに行える活動である。それに加え、学生だけではなく地域の方にも楽しみを共有してもらえるイベントとして有用である。

以下では、ビブリオバトル in 鳥取の実施概要を当日の様子を紹介する。ビブリオバトルを中心市街地で実施することは、地域住民や学生に与える諸効果が存在する。そのような効果については高井（2014）において言及している。本稿では高井（2014）では触れることができなかった、ビブリオバトル in 鳥取の詳細な結果を報告する。

2. ビブリオバトルとは

ビブリオバトルとは立命館大学准教授の谷口忠大氏が日本学術振興会特別研究員であった 2007 年に考案した書評ゲームであり「知的書評合戦」とも呼ばれている。「人を通して本を知る、本を通して人を知る」がキャッチフレーズであり、谷口（2013）によれば、職場、学校、地域等様々な場におけるコミュニケーションツールとして有用である。

ビブリオバトルのルールは以下に示すとおりきわめて単純である。

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持ち寄る。
2. 順番に一人 5 分間で本を紹介する。
3. 各発表の後に参加者全員でその発表に関する質疑を 2、3 分行う。
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。

以上から明らかなおおり、ビブリオバトルは特別なスキルをもたずとも、だれもが、参加できるイベントである。

3 節では実際のビブリオバトルの風景をご紹介することで、地域と学生とをつなぐコミュニケーションツールとしての有用性を確認してみたい。

3. ビブリオバトル in 鳥取実施概要

学生たちによる街中でのビブリオバトルを「ビブリオバトル in 鳥取」と名付けて実施した。鳥取市内では、一般市民が参加可能なビブリオバトルの実施自体初めての試みであった。第一回目を2013年7月に、第二回目を2014年1月に実施した。それぞれに参加した学生は鳥取環境大学の必修科目である「プロジェクト研究1～4」を履修している1, 2年生である。学外でビブリオバトルを実施するにあたり、試行的に学内で数回のビブリオバトルを実施した。以下にビブリオバトル in 鳥取の概要を記す。

3.1 第一回ビブリオバトル in 鳥取

3.1.1 概要

日 時：2013年7月21日（日）13時から16時

場 所：鳥取市栄町「ギャラリーそら」

紹介者：プロジェクト研究1・3「ビブリオバトル in 鳥取」を受講している1, 2年生13名と環境学部1年生1名の計14

参加者：鳥取環境大学学生14名、担当教員1名及び一般参加者24名（計39名）

実施方法：14名を3つのセッションに分け、セッションごとにチャンプ本（聴衆が最も読みたいと思った本）を選出。

3.1.2 当日のセッションと紹介書籍一覧

表1に紹介書籍を示す。

表1 第一回ビブリオバトル in 鳥取での紹介書籍一覧

紹介者	タイトル（著者）
セッション1「ビブリオバトルの良心たち：正統派の戦い」	
小倉 亮（環境学部1年）	世界の日本人ジョーク集（早坂隆）
赤嶺 文香（環境学部1年）	たとえば、銀河がどら焼きだったら？宇宙比較講座（布施哲治）
谷田沙蓉子（環境学部2年）	阪急電車（有川浩）
山本 将吾（環境学部2年）	先生、シマリスがヘビの頭をかじっています！（小林朋道）
浅木 京平（環境学部1年）	世界最悪の鉄道旅行 ユーラシア横断2万キロ（下川裕治）
セッション2「環境大が誇るエンターティナー達の競演」	
奥村 太一（経営学部1年）	ヨルムンガンド（高橋慶太郎）
片山 裕樹（経営学部2年）	東京バンドワゴン（小路幸也）
佐藤 悠吾（経営学部1年）	聖・天才・羽生が恐れた男（山本おさむ）
井上 実保（経営学部1年）	この言葉！生き方を考える50話（森本哲郎）
竹内 郁明（環境学部1年）	名前探しの放課後（辻村深月）
セッション3「激戦区～歴代チャンプ獲得者たちと孤高の芸術家の戦い～」	
益本 省吾（経営学部1年）	夢をかなえるゾウ2 ガネーシャと貧乏神（水野敬也）
茂木 裕美（経営学部2年）	超訳百人一首うた恋（杉田圭）
長谷川桐弥（環境学部2年）	チェーンポイズン（本多孝好）
前田 剛志（環境学部2年）	四畳半神話大系（森見登美彦）



写真1 第一回ビブリオバトル in 鳥取会場風景

3.1.3 結果

投票の結果各セッションで次の3冊がチャンプ本として選ばれた。

セッション1 「ビブリオバトルの良心たち：正統派の戦い」

「世界の日本人ジョーク集」(著者：早坂隆)、紹介者：小倉亮(環境学部1年)

セッション1は、全5冊中、新書2冊、自然科学系エッセイ2冊、小説1冊と、大学生のビブリオバトルらしい戦いが繰り広げられた。「世界の日本人ジョーク集」は、全得票の半数を集めていた。

小倉君によるコメント：チャンプ本に選ばれるのは初めてで、まさか選ばれるとは思っていませんでしたが、すごくうれしいです。

セッション2 「環境大が誇るエンターティナー達の競演」

「東京バンドワゴン」(著者：小路幸也)、紹介者：片山裕樹(経営学部2年)

セッション2は、エンターテインメント性の強いプレゼンを得意とする評者たちによる戦いが繰り広げられた。過去に学内で実施した2回のビブリオバトルとともに次点で、前日のプロジェクト研究発表会におけるデモンストレーションでチャンプ本を獲得した佐藤が有利、との下馬評が高かったものの、一票差で、前日までの某うどん店での激務を立派に勤め上げた片山が勝者に選ばれた。

片山君によるコメント：というわけで、これが昭和の力ですね。ありがとうございます。

(補注：昭和の香りのする4世代家族がテーマの「東京バンドワゴン」。平成生まれの学生たちに対して、観戦者は昭和生まればかり。それをうまく捉えたコメント。開場からは、ドッと笑いが起こった)

セッション3 「激戦区～歴代チャンプ獲得者たちと孤高の芸術家の戦い～」

「四畳半神話大系」(著者：森見登美彦)、紹介者：前田剛志(環境学部2年)

下馬評では、過去2回チャンプ獲得の長谷川とそれぞれ1回ずつチャンプ獲得の茂木、益本が有利と言われていたが、ふたを開けてみたらびっくり。ビブリオバトルポスターを作製した芸術家肌の前田が持ち前の知性で歴代チャンプたちを下した。

前田君によるコメント：選ばれると思っていませんでしたのでちょっとびっくりしたんですけど、僕ひとりだったんで、選ばれたということは最後まで楽しんでいただけたのかなと思いました。良かったです。ありがとうございました。

3.1.4 成果

真夏の暑い一日であったものの、24名の方に集まっていただくことができ、幸いにして好評を得ることができた。一般来場者にアンケートをおこなったところ、23名の回答者全員から「今後もビブリオバトルを観戦したい」という回答を得た。

3.2 第二回ビブリオバトル in 鳥取

3.2.1 概要

日時：2014年1月18日（土）13時から16時

場 所：鳥取市栄町「ギャラリーそら」

紹介者：プロジェクト研究2・4「鳥取環境大学の価値を考える。価値を創る。」を受講している1, 2年生12名と昨年11月にビブリオバトル山陰地区決戦に環境大学代表として出場した2名（環境学部1年生浅木京平君、経営学部2年茂木裕美さん）の計14名。

参加者：鳥取環境大学学生14名、担当教員1名及び一般参加者18名（計33名）

実施方法：14名を3つのセッションに分け、セッションごとにチャンプ本（聴衆が最も読みたいと思った本）を選出。

3.2.2 当日のセッションと紹介書籍一覧

表2に紹介書籍を示す。

表2 第二回ビブリオバトル in 鳥取での紹介書籍一覧

紹介者	タイトル（著者）
セッション1「寒い冬に、こころが暖まる小説と動物エッセイ」	
大石 凌輔（経営学部2年）	バッテリー（あさのあつこ）
川原 大治（環境学部1年）	8年（堂場瞬一）
野口 晃平（経営学部1年）	星の王子さま（サン＝テグジュペリ）
長尾みづき（経営学部2年）	ホームタウン（小路幸也）
阪本 凱（経営学部1年）	先生、大型野獣がキャンパスに侵入しました（小林朋道）
セッション2「熱い人生を送りたくなる本と、相変わらずぬるい松崎独演会」	
岩切 大起（環境学部2年）	ぼくは猟師になった（千松信也）
前原 佑亮（環境学部2年）	無駄に生きるな熱く死ぬ（直江文忠）
前田 拡記（経営学部2年）	エリートを超える凡人のための人生戦略ノート（森田正康）
多々納逸人（環境学部2年）	ダイバーシティ（山口一男）
松崎 純也（環境学部1年）	女医が教える 本当に気持ちのいいセックス（宋美玄）
セッション3「激戦区～歴代チャンプ獲得者と地区決戦代表者の戦い」	
浅木 京平（環境学部1年）	最長片道切符の旅（宮脇俊三）
高橋 龍（環境学部1年）	これからの「正義」の話をしよう（マイケル・サンデル）
竹内 郁明（環境学部1年）	カラフル（森絵都）
茂木 裕美（経営学部2年）	スローな未来へ～「小さな町づくり」が暮らしを変える～（島村菜津）

3.2.3 結果

投票の結果各セッションで次の4冊がチャンプ本として選ばれた。

セッション1「寒い冬に、こころが暖まる小説と動物エッセイ」

「8年」(著者：堂場瞬一)、紹介者：川原大治(環境学部1年)

セッション1では、野球を題材とした小説が2作品、そして、心温まる話が3作品並んだ。本セッションで紹介された「星の王子さま」は言わずと知れた名著であるが、筆者は実は読んだことがなかった。しかし紹介を聴いて、強く読んでみたいと思われ、そして実際に読んだ。ビブリオバトルには、このような実効的な効果が存在する。

チャンプには、その本と出会うまで夢を持っていなかった川原君が、読んだことをきっかけとして夢を持ちたいと強く思えるようになった「8年」が選ばれた。

川原君によるコメント：面白いんで、読んでいただけたらいいと思います。夢に向かっている人とか、夢がない人は、もっと熱くなれると思うんで、読んで、夢を持って熱くなってください。

セッション2「熱い人生を送りたくなる本と、相変わらずぬるい松崎独演会」

「ぼくは猟師になった」(著者：千松信也)、紹介者：岩切大起(環境学部2年)

「無駄に生きるな 熱く死ぬ」(著者：直江文忠)、紹介者：前原佑亮(環境学部2年)

セッション2は、いずれも紹介者の読み込みが深かったことが印象的だった。すべての本に共通するのが、人生について考えさせられるという点であった。チャンプに選ばれた本はいずれも、著者のメッセージが紹介者の心に深く届いていたことが、聴衆にもひしひしと伝わるものだった。この本を紹介したい、と強く意識できる本との出会いが、なにより大事なのだろう。

岩切君によるコメント：環境学部なので、こういうジャンルの本を読みたいと思ったのもちょっとありました。しっかり学んだことを生かして勉強を頑張っていきます。

前原君によるコメント：僕が紹介した本は何回読んでも本当にためになるというか、やる気(に火を)点けてくれると思うので、一家に一冊置きましょう。

セッション3「激戦区～歴代チャンプ獲得者とビブリオバトル山陰地区決戦代表者の戦い」

「これからの『正義』の話をしよう」(著者：マイケル・サンデル)、紹介者：高橋龍(環境学部1年)

過去に十分な発表経験のある地区決戦代表者が優勢かに見えたが、高橋君の紹介した「これからの『正義』の話をしよう」がチャンプ本に選ばれた。高橋君によるわかりやすい例によって、日々生きる中で、われわれは哲学することから逃れられないということが、伝わってきた。

高橋君によるコメント：ありがとうございます。正義は勝つということで、チャンプ本になりました。ビブリオバトル、これからもあると思うんで、ぜひ足を運んでいただけたらと思います。僕も、出来る限り出ようかなと思っています。よろしくお願ひします。(司会者を務めた松崎君から、今後の抱負を聞かれたためのコメント。)

3.2.4 成果

第二回ビブリオバトル in 鳥取では、第一回とは異なりビブリオバトル自体を目的として集まった学生が少なかったにもかかわらず、レベルの高い戦いを繰り広げた。主観的評価ではあるものの、今回参加した学生は第一回に参加した学生に勝るとも劣らないプレゼンテーションを見せてくれた。ま

た、司会者の話術に会場からの笑いが常に絶えず、「嘶家さん入門したら？」という声もあった。

当日は、気温も低く雨模様という天気であったこともあって、来場者は第一回の24名を下回る18名であった。しかし当日実施したアンケートに回答していただいた13名のうち12名の方から「今後もビブリオバトルを観戦したい」という回答をいただいた。



写真2 第二回ビブリオバトル in 鳥取会場風景

4. おわりに

以上、ビブリオバトル in 鳥取の実施概要を報告した。まだ二回しか実施していないためその成果について言及できる場所は少ないものの、アンケート回答結果からは、観戦者の評価は高いものとなっている。

今後もビブリオバトル in 鳥取は鳥取市中心市街地において実施予定であり、来年度は学生のみならず一般市民の方にも書籍の紹介者として参加していただける仕組みを作っていきたいと考えている。それによって、ビブリオバトルを通じた学生と地域との間のつながりが生まれるのではないかと考える。

参考文献

高井 亨 (2014) 「ビブリオバトルによる域学連携の試み」, 鳥取環境大学紀要 12, 印刷中

谷口 忠大 (2013) 「ビブリオバトル」, 文春新書